

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 03014514
PUBLICATION DATE : 23-01-91

APPLICATION DATE : 21-02-90
APPLICATION NUMBER : 02038552

APPLICANT : FIRMENICH SA;

INVENTOR : MOULIN DANIEL;

INT.CL. : A61K 7/32 A61K 7/46 C11B 9/02

TITLE : PERFUME COMPOSITION HAVING DEODORANT OR ANTIPERSPIRANT ACTION,
AND DEODORANT OR ANTIPERSPIRANT DEVICE OR PRODUCT

ABSTRACT : PURPOSE: To prepare a perfume composition, comprising a specific perfume base in the form of an aqueous emulsion or a microcapsule in addition to an active deodorant base or an antiperspirant base and useful for a transparent and clear stick and a roll-on product, etc., for body sanitation and having deodorant and antiperspirant actions.

CONSTITUTION: This composition comprises an aqueous emulsion or a microcapsule form perfume base in addition to an active deodorant base or antiperspirant base (e.g. an aluminum or a zirconium salt). The perfume base has deodorant or antiperspirant action used for body sanitation, and a film-forming substrate containing polyvinylpyrrolidone (or polyvinyl acetate, etc.) and an emulsifying agent are contained. The emulsifying agent is selected from mono- or diglycerides, etc., of fatty acids.

COPYRIGHT: (C)1991,JPO

⑫ 公開特許公報(A) 平3-14514

⑬ Int. Cl.⁵A 61 K 7/32
7/46

識別記号

A
B

庁内整理番号

6971-4C
8413-4C
8413-4C
7106-4H

⑭ 公開 平成3年(1991)1月23日

C 11 B 9/02

審査請求 未請求 請求項の数 9 (全9頁)

⑮ 発明の名称 脱臭又は抗発汗作用を有する香料組成物及び脱臭又は抗発汗装置又は製品

⑯ 特 願 平2-38552

⑰ 出 願 平2(1990)2月21日

優先権主張 ⑱1989年2月21日 ⑲スイス(CH) ⑳598/89-0

㉑ 発 明 者 ギュンター・ホルツナ スイス国グラン・ランシイ・シユマン・デ・バレッツテ 15

㉒ 発 明 者 ダニエル・ムラン ドイツ連邦共和国プティ-ランシイ・シユマン・デュ・フ
イエ-ドウ-シャビトル 1

㉓ 出 願 人 ファイルメニツヒ・ソシ スイス国ジュネーヴ8・ルート・デ・ジュネ 1
エテ・アノニム

㉔ 代 理 人 弁理士 矢野 敏雄 外1名

明 細 書

1 発明の名称

脱臭又は抗発汗作用を有する香料組成物及び
脱臭又は抗発汗装置又は製品

2 特許請求の範囲

1. 活性な脱臭基剤又は抗発汗基剤に加えて、
水性エマルジョン形又はマイクロカプセル形
の香料基剤を含有する、身体衛生で使用する
脱臭又は抗発汗作用を有し、この場合、この
香料基剤がフィルム形成基質及び乳化剤と配
合されている香料組成物において、このフイ
ルム形成基質がポリビニルピロリドンを含む
ものであることを特徴とする脱臭又は抗
発汗作用を有する香料組成物。

2. 上記フィルム形成基質が本質的にポリビニ
ルピロリドンから成るものである、請求項1
記載の香料組成物。

3. 上記フィルム形成基質が、ポリビニルピロ
リドン以外にポリビニルアセテート、ポリビ
ニルアルコール、デキストリン、天然又は変

性の澱粉、植物性ゴム、ペクチン、キサンタ
ン、カルボキシメチルセルロース、メチルセ
ルロース、ヒドロキシエチルセルロース、及
び、リポヘテロポリサッカライドから選ばれ
た少なくとも1つの化合物を含有する請求項1
記載の香料組成物。

4. 乳化剤が脂肪酸のモノ-又はジグリセリド、
脂肪酸のソルビトール又はサッカライドとの
組合せ物から誘導されるエステル、又はその
アルコキシ化誘導体、又は酒石酸、クエン酸、
アスコルビン酸又は乳酸から選ばれる、請求
項1から3までのいずれか1項に記載の香料
組成物。

5. 水性エマルジョンが

a. フィルム形成基質2～20%

b. 乳化剤0.1～10%

c. 香料基剤0.1～5%

d. 活性な脱臭又は抗発汗基剤0.1～50%
からなり、残りは水、不活性溶剤及び/又は
賦形剤及び場合により消毒剤、殺菌剤及び制

固剤である請求項1から4までのいずれか1に記載の香料組成物。

6. 抗発汗基剤がアルミニウム又はジルコニウム塩から成る請求項1記載の香料組成物。

7. アルミニウム又はジルコニウム塩がアルミニウム又はジルコニウム塩酸塩である、請求項6記載の香料組成物。

8. 脱臭又は抗発汗装置又は製品において、請求項1に記載の香料組成物を含有することを特徴とする、身体衛生のために使用する、脱臭又は抗発汗装置又は製品。

9. クリーム、ステイック、ロール・オン (roll-on)、スムーズ・オン (smooth-on)、エーロゾル又は粉末から選ばれる請求項8記載の脱臭又は抗発汗装置又は製品。

3 発明の詳細な説明 〔産業上の利用分野〕

本発明は、活性な脱臭又は抗発汗基剤に加えて、水性エマルジョン形又はマイクロカプセル形のいずれかの形態の香料基剤を含有し、この

教示は、参考までに、本出願に含まれる。組成物に使用される成分、即ち、フィルム形成基質及び乳化剤の特定の選択のため、活性脱臭成分の「再カプセル化」の逆転現象を起こすことができ、多くの連続的活性化を脱臭剤の再使用を行うことなく、皮膚そのものにおいて行うことができた。それ故、実際の再カプセル化は、発汗時間につづく皮膚の乾燥段階の間にその場所で行われる。

本発明者は、フィルム形成基質成分として、特定の物質、即ちポリビニルピロリドンを使用すると、上記の米国特許に記載されたものより、一層改善されかつより有利な香料組成物を提供しうるとの知見を得た。

〔発明を達成するための手段〕

それ故、本発明の目的は、活性な脱臭又は抗発汗基剤に加えて、水性エマルジョン形又はマイクロカプセル形の香料基剤を含有し、この香料基剤がフィルム形成基質及び乳化剤と組合されている、身体衛生で使用するための脱臭又は

香料基剤がフィルム形成基質及び乳化剤と組合されている、身体衛生で使用するための、脱臭又は抗発汗作用を有する香料組成物の場合に、このフィルム形成基質がポリビニルピロリドンを含むことを特徴とする香料組成物に関する。

また、本発明は、上述の香料組成物を含有することを特徴とする、身体衛生で使用するための脱臭又は抗発汗装置又は製品に関する。

〔従来の技術〕

本出願人による米国特許第4,803,195号明細書は、活性な脱臭又は抗発汗基剤に加えて、水性エマルジョン形又はマイクロカプセル形のいずれかの香料基剤を含有する、脱臭又は抗発汗作用を有する香料組成物を開示している。香料基剤は、フィルム形成基質及び乳化剤と組合されている。上記特許で述べられているように、この種の組成物は長時間にわたって、香料の活性化及び拡散をコントロールしうるという利点を有しており、かつ、この特許に含まれている

抗発汗作用を有する香料組成物であつて、このフィルム形成基質がポリビニルピロリドンを含むことを特徴とする香料組成物である。

本発明の目的とする組成物の利点は、ポリビニルピロリドンがアルコールに可溶であり、このため、透明な脱臭及び抗発汗用ステイック及びロール・オン装置のような使用において、特に有用である高度に美的価値を有する完全に透明な溶液を生成しうるとの事実から生ずる。加えて、他の個人的な衛生製品又は抗発汗及び脱臭装置における使用を目的とする種々の組成物において、フィルム形成基質成分としてポリビニルピロリドンを使用することは、これが香料組成物のエタノール/水の比を増大させ、それゆえ使用時に後者の乾燥を促進せしめる点で実上好ましいことが判明した。

本発明の組成物は、抗発汗剤の場合に特に欲しい周囲の作用から香料の活性成分を保護する必要性と抗発汗剤の拡散の時間を延長したいとの希望をあわせて有する。この二重作用は上述

の現象の結果である。皮膚に使用されるとき、香料基剤が水性エマルジョンの形で使用される場合、フィルム形成基質の結合効果のために、付着によりエマルジョンの表面に、先づ保持される。単にこうして処置された皮膚を空気にさらすことによつて行なわれ、体温によつて補助される乾燥のために、活性な香料基剤は基質により形成された水溶性の保護層で被覆された顕微鏡的小滴の形で保持され、その後は乾燥したものととなるであろう。

この場合、その使用のために特別の装置を使用する必要のない単一系が必要である。化粧品で現在使用され、かつ、脱臭剤及び抗発汗剤として使用される、任意の慣用の果も使用することができる。この点で、クリーム、ローション、スモース・オン又は粉末が挙げられる。

活性な香料基剤がマイクロカプセル化された形で使用されるときは、一般にアルコール溶液中に懸濁したものを使用する。予め、固体のフィルム形成基質及び乳化剤と組合された香料基

剤は、スプレー乾燥塔中での通常の方法により噴霧される。製造され、香料基剤を封入したマイクロカプセルは、脱臭剤又は抗発汗剤と混合され、かつ、次にスティック製造のために使用される技術により実質的にワックスから構成される基剤中に、又は、エロゾル製造のための噴射混合物中に懸濁される。

本発明の1つの実施態様において、フィルム形成基質は本質的にポリビニルピロリドンから成る。他の、一層経済的な実施態様において、フィルム形成基質は、ポリビニルピロリドンの他に、ポリビニルアセテート、ポリビニルアルコール、天然又は変性デキストリン、天然又は変性澱粉、植物性ゴム、アルギン酸塩、カラジナナン、ペクチン、キサンタン、又は、カルボキシメチルセルロース、メチルセルロース、及びヒドロキシエチルセルロースのようなセルロース誘導体から選ばれる1つ又はそれ以上の化合物を含有する。これらは、一般に「ゴム」という用語で定義される化合物である（これに関

し、定義はカーク・オスマー (Kirk-Othmer)、エンサイクロペディア・オブ・ケミカル テクノロジー (Encyclopedia of Chemical Technology)、第2版、第10巻、第741頁を参照)。

例えば、アラビアゴムのような、「天然ゴム」という用語は、樹草抽出物、例えば寒天、カラジナナン、フルセララン (fucellarane) 及び、変性の、又は、半合成のゴム等を含む。これらは、セルロース及び澱粉誘導体及びヘテロポリサッカライド、例えば、乳化剤として公知のバイオポリマーのような微生物学発酵により形成されたゴムである(86年4月23日発行のヨーロッパ特許出願第178 443号参照)。

乳化剤としては、脂肪酸のモノ-又はジグリセリド、脂肪酸とソルビトール又はモノサッカライドとの化合に由来するエステル、又はアルコキシ化された誘導体又は酒石酸、クエン酸、アスコルビン酸又は乳酸が使用できる。

また、本発明による組成物は、香料基剤を含有する。本発明の用語において、「香料基剤」

とは、単独か、又は天然の希釈剤、溶剤又は成分中での溶液又は懸濁液のいずれかの、香料物質又は香料物質の混合物として理解される。この語は、特に、一般には水と混合しない、かつ高い蒸気圧を有する有機溶液を含む。かかる香料基剤は、特定の化学的なクラスに属し、かつ例えば、エステル、エーテル、アルコール、アルデヒド、ケトン、アセタール、ニトリル、テルペン炭化水素、窒素又はイオウを含有する複素環式化合物及び天然起源の精油を包含する化合物によつて形成することができる。香料基剤の特定の選択は、必要な香料効果、賦香される製品の性質、及び、もちろん、当該調香師の嗜好及び好みによる。

使用しうる香料化合物の典型的な例は、文献に述べられており、この関係で、B. アークタンダー (B. Arctander)、パーフェューム アンド フレイバー ケミカル (Perfume and Flavor Chemicals)、モントクレール (Montclair) N.J. (USA) (1969) を引用しうる。

また、本発明の組成物は、消毒剤、殺菌作用を有する抗菌剤、ならびに、制菌剤を含有する。

この成分の正確な濃度範囲を定義するのは困難であるが、本発明の香料組成物は好適には次のものを含む(重量%)：

- a. 固体のフィルム形成基質 2 ~ 20 %、
- b. 乳化剤 0.1 ~ 10 %、
- c. 香料基剤 0.1 ~ 5 %、
- d. 活性脱臭剤又は抗発汗剤 0.1 ~ 50 %、

水、不活性溶剤、及び／又は希釈剤及び、適宜消毒剤、殺菌剤又は制菌剤を含むものからなる残部。

脱臭剤は、体臭を遮蔽し、かつ、汗を分解する細菌の成長を抑制することのできる物質と理解される。多くの殺菌剤及び制菌剤が知られており、この目的のために使用される。例えば、次のものが使用される：ヘキサクロロフェン、シクロクロフェノール、トリクロロサルチルアニリド(Anobial)、トリプロモサルチルアニリ

ド(TBB)、テトラクロロサルチルアニリド(TCBA)、トリクロロカルブアニリド(TOO)及びイルガサン(Irgasan、登録商標)DP 300(ナバーガイヤー)。

抗発汗基剤として、アルミニウム塩、例えば、上述のアルミニウムクロロヒドレートが好適に使用される。抗発汗基剤を有する製品として、種々の組成物が市場に提案されている：クロルヒドロール(Chlorhydrol)、コラセル(Choracel)及びレザール(Resal、レハイスケミカル(Reheis Chem)社による登録商標、米国)がこの例である。これらは、鋳体アルミニウム又はアルミニウムとジルコニウムの塩である。他の抗発汗基剤も特定の文献に記載されている(例えば、ヘルバートP、フィードラー(Herlbert P. Fiedler)、デアシュニバイス(Der Schweiß)、Cantor KG 版、Aulendorf i. Württ.、西独)。

本発明による香料組成物は、身体衛生用に意図された製品の製造に特に適している。これら

は、多くの異なる形態で得られる。上述のように、これらは、スティック、ロール・オン、スプレー・オン、又はエロゾル又は機械的あるいは手により圧縮される噴霧剤である。加えて、透明、滑らかなスティック及びロール・オンの製造におけるこの組成物の好適な使用については、既に述べた。

本発明による組成物は、慣用の装置手段による混合により得られる。混合方法は公知であり、詳細な説明はここでは不要である。方法は、製造される最終製品に本質的に依存する。こうして、例えば、抗発汗組成物をロール・オン型のボール装置により使用するために製造する場合には、方法は次のとおりである。

室温で、固体のフィルム形成基質により形成された粉末、例えば、マルトデキストリンとポリビニルピロリドンの混合物を、必要量の脱塩水に注ぐ。粉末が完全に溶解したら、得られた溶液に抗発汗基剤を加え、混合物を調合し(brewed)、70℃に加熱し、次いで、この

温度でホモゲナイザー混合器を使用して乳化剤を加える。調合の後、数分して、混合物を室温に冷却し、かつ香料基剤を約40℃で添加する。粘稠の香料物質を最後にボール・トップ・ロール・オン・型の容器に加える。

湿潤した抗発汗組成物を機械又は手による圧力噴霧装置手段により使用するために製造する場合には、好ましくは次の方法が使用される。

粉末形の固体基質を室温で水又は水-エタノール混合物に加え、完全に溶解するまで1時間調合する。活性な抗発汗基剤(例えば、アルミニウム又はジルコニウムクロロヒドレート)を得られた溶液に加え、次いで、乳化剤と予め混合した香料基剤を加えた。次に、混合物を噴霧容器に加えた。

本発明は、以下の実施例により非制限的に示され、この例において、温度はセ氏で示され、略語はこの分野で使用される通常の意味を有する。

[実施例]

例 1

ロール・オン用の抗発汗組成物

ロール・オン型のボール・トップ (ball-top) 分配器に装入すべきクリーム型の抗発汗組成物を、次の混合物を少量ずつ脱塩水 65g に添加することにより製造した。

ルビスコール (Luviskol : 登録商標) E 30
(粉末のポリビニルピロリドン)¹⁾

3.00g

グルシテックス (Glucides) 21 (マルト
デキストリン DB 20-23)²⁾

5.90g

ナデックス (Nadex) 722 (マルトデキス
トリン DB 9-12)³⁾

1.00g

アルギン酸ナトリウム

0.10g

1) バスフ (BASF) AG

2) ロケット フレール (Roquette Freres)

3) グレン プロセッシング (Grain Processing) 社

成分が完全に溶解するまで、混合物を調合し、次に、ロクロン (Locron) 20g (Locron L、アルミニウム塩酸塩、50% 溶液、ヘキスト

トウィーン (Tween) 20 (エトキシ化ソルビ
タンモノラウレート ICI、アトラス (Atlas)
社)

0.10g

トリトン (Triton) CG 110 (アルキルグル
コシド、レームアンドハース (Röhm & Haas))

1.00g

エムルサン (Emulsan) (ペトロフェルム
(Petroferm)、ピオポリマー)

0.05g

から成る混合物を添加し、次いでロクロン

(Locron) L (ヘキスト社) 10g を添加し、

かつ混合物を 70℃ に加熱した。この温度で、エ
ムルガード 1000 NI (ヘンケル社) 4g を、
ホモゲナイザーを用いて激しく攪拌しながら添
加した。2~3 分調合した後、混合物を室温に
冷却し、かつ香料 (シユルフ (Surf) 635040
E、アルデヒド、花様のフレッツシュ型、フィ
ルメニツヒ社、シュネーグ) 1g を添加した。得
られた混合物を最終に、ロール・オン型分配器
に詰めた。

例 3

AG) を加えた。混合物の温度を 70℃ にした後、
エムルガード (Emulgade) 1000 NI (自己
乳化、非イオン性ワックス、ヘンケル AG) 4
g を、ウルトラ テュラックス ホモゲナイザー
(Ultra Turraz) により激しく攪拌しながら
添加した。数分間ホモゲナイズした後、混合
物を室温に冷却し、約 40℃ で、香料 1g (ベ
ラ (Vera) 72276/B、オーテコロン型、
フィルメニツヒ (Firmenich) 社製、シュネー
グ) を加えた。得られた混合物を最終的にロー
ル・オン・型分配器に詰めた。

例 2

ロール・オン用抗発汗組成物

ボール・トップのロール・オン型の分配器に
装入すべきクリーム型の抗発汗組成物を、ルビ
スコール E 30 (BASF) 2g とカプシユル
(変性トウモロコシ澱粉、ナショナルスターチ
(National Starch) 社製) 8g を脱塩水
63.95g に少量ずつ添加することにより製造
した。2 時間調合した後で、

ロール・オン用の抗発汗組成物

ボール・トップのロール・オン・型分配器
に装入すべき、澄んだ透明の外観を有する抗発
汗組成物を、前記のようにして、次の成分 (重
量部) を用いて製造した：

	a	b
I 脱塩水	11.8	11.8
II ナトロゾール (Natrosol) 250LR ¹⁾	1.2	-
レザル (Rezal) 67 (40% 液) ²⁾	45.0	45.0
III ルビスコール (登録商標) E 30 ³⁾	1.5	2.7
エタノール 95°	38.0	38.0
IV クレモホル (Cremophor) RH40 ⁴⁾	1.5	1.5
香料 ⁵⁾	1.0	1.0
	100.0	100.0

1) ヒドロキシエチルセルローズ、ハークルス
(Hercules) 社。

2) 鋸体シルコニウムクロロヒドレート、レハ
イス (Reheis) ケミカル社。

3) 例 1 参照。

4) 水素添加エトキシ化カストル (Castor)

油、BASF A G

- 5) ガブリエラ (Gabriela) 230、183、
フレッシュな花標果物型、フィルムニッヒ
B A、ジュネーグ

成分Ⅰを水に入れ、混合物が完全に仕込むまで
調合する。ルビスコル E 30 をエタノールに溶
解して、成分Ⅰを製造し、成分Ⅳを製造するた
めにクレモホル RH 40 に香料を乳化させた。
成分Ⅰを完全に均一になるまで常時攪拌しなが
ら溶液に少量ずつ加えた。成分Ⅳを最後に加え、
よく混合し、混合物をロール・オン容器に詰め
る。全調製は室温で実施された。

例 4

スムース・オン用の抗発汗組成物

スムース・オン型容器に装入すべき、抗発汗
組成物を次の成分から製造した：

I 脱塩水	37.0
II ルビスコル E 30 ¹⁾	2.0
グルシテックス (Glucoidex) 21 ²⁾	7.0
ナデックス ³⁾ (Nadex)	1.0

た。

例 5

加圧スプレー用の抗発汗組成物

機械又は手動による圧力で操作するスプレー
系を有する分配装置（“ポンプスプレー”又は
“圧さくボトル”）において使用すべき抗発汗
組成物を、次の成分から製造した：

I 脱塩水	39.0
II ルスキボル (Luskivol) E30 ¹⁾	2.0
グルシテックス 21 ²⁾	8.0
III ロクロン L ³⁾	20.0
1,3-ブチレングリコール	1.5
エタノール 95°	26.5
IV 芳香剤 ⁴⁾	1.0
クレモホル RH 40 ⁵⁾	2.0
	100.0

1)、2)、3) 例 1 照

- 4) ディアボロ (Diabolo) UN 110.382/
B、花標のフレッシュなシトラス (citrus)
型、フィルムニッヒ社、ジュネーグ

III ロクロン L ⁴⁾	40.0
IV エマルガード 1000 NI ⁶⁾	8.0
アラルセル 165 ⁶⁾	4.0
V 香料 ⁷⁾	1.0
	100.0

1) 例 1 参照

2) 同上

3) 同上

4) 同上

5) 同上

6) ステアリン酸グリセリル + PEG 1000 ステア
レート、ICI アトラス

7) アムブロシア (Ambrosia) UN 110.381/
B、花標、じやこう様、森林型、フィルムニ
ッヒ社、ジュネーグ

成分Ⅰを脱塩水に溶解させ、成分Ⅰを得られ
た溶液に加え、70°に加熱する。70°Cに予め
加熱した成分Ⅳを得られた混合物に加えた。ホ
モゲナイザー中で精力的に調合した後、混合
物を冷却し、芳香剤を約 40°で攪拌時に添加し

6) 例 3 参照

成分Ⅰを脱塩水に添加し、仕込んだ溶液が得ら
れるまで（1時間）、調合した。次いで、成分
Ⅰと成分Ⅳを洗って攪拌しながら加え、生成し
た混合物をスプレー容器に詰めた。

例 6

エロゾルスプレー用の抗発汗組成物

“スプレー”型分配器により適用される抗発
汗組成物を、次の混合物を噴霧化して製造した。

水	49.0
グルシテックス ¹⁾	30.0
ナデックス ²⁾	4.0
ルビスコル E 30 ³⁾	6.0
アルギン酸ナトリウム	0.8
カプスル (Capsul) ⁴⁾	-
トウイーン 20	0.2
芳香剤 ⁵⁾	10.0
	100.0

1)、2)、3) 例 1 参照

4) 変性とうもろこし澱粉、ナショナルスター
チ

5) スルフ (Surf) 635.040E、フィルム
ニッヒ社、ジュネーヴ

噴霧を行うために、リーフラッシュ (Leafflash)

型装置 (00M スルザー (Sulzer)) を使用する:

エマルジョンの吐出量 50 kg/hr

乾燥空気 320 m³/h (350°C及び0.45バール)

次いで得られた蒸剤組成物を、次の成分と混
合することによつて、エーロゾルスプレー用の
抗発汗組成物を製造するために、使用した:

I 蒸剤組成物(a)	3.00
微粉末形のアルミニウムクロロヒドレート (ヘキスト社)	4.20
アルミニウム塩酸塩アラントイネート(メ ルク社)	0.50
ミリスチン酸イソプロピル	6.85
アエロジル (Aerosil) 200(デグツサ社)	0.25
イルガサン (Irgasan) DP 300(チバー	

II 微粉末形のアルミニウム塩酸塩 ³⁾	20.0
タルク	5.0
III ダウ・コーニング・フルイド (Dow Corning fluid) 345 ⁴⁾	35.6
IV 蒸剤組成物(a) ⁵⁾	6.0
	100.0

1) C12~15 アルコールの安息香酸エステル
フィネテックス (Finetex)

2) 例4参照

3) 例6参照

4) 揮発性シリコン油

5) 例6参照

全成分が溶解するまで、成分Iを80°Cに加熱
し、かつ激しく攪拌しながら、溶解混合物に、
成分II、III及びIVを加えた。これを放冷し、
40~50°Cに冷却し、かつスムース・オン容器
につめた。

例8

ステイック用の抗発汗組成物

乾燥ステイック用の抗発汗組成物を次の成分

ガイヤー社)	0.20
噴射剤11 ¹⁾	50.00
II 噴射剤12 ²⁾	5.00
プロパン/ブタン ³⁾	30.00
	100.00

1) モノフルオロトリクロロメタン

2) ジフルオロジクロロメタン

3) 3.7バール混合物

均一な懸濁物を得るために成分Iを予め混合
し、次いで、成分IIとともにエーロゾル容器に
詰めた。

例7

スムース・オン用の抗発汗組成物

スムース・オン用の抗発汗組成物を次の成分
から製造した(重量部):

I セチルアルコール	9.0
密ロウ	4.5
ステアリン酸	4.5
フィシゾルフ (Finsolv) TN ¹⁾	10.0
アルラセル (Arlacel) 165 ²⁾	5.4

で製造した(重量部):

I オクタデカノール	19.0
アルラセル165 ¹⁾	1.0
PEG 1000 ²⁾	5.0
II アエロジル200 ³⁾	1.4
タルク	1.0
レザール36P ⁴⁾	19.0
III ダウ・コーニング・フルイド345 ⁵⁾	47.6
IV 蒸剤組成物(a) ⁶⁾	6.0
	100.0

1) 例4参照

2) ポリグリコール1000、ヘキスト社

3) デグツサ

4) 錯体ジルコニウム塩酸塩、レハイスケミカ
ル社

5) 揮発性シリコン油

6) 例6参照

全成分が完全に溶解するまで、成分Iを90°C
に加熱し、次いで、加熱を中断し、成分IIを得
られた混合物に加えた。成分III及びIVを続けて

攪拌しながら添加した。この混合物は最後に約65℃で適当な型に注入した。

例9

例6により製造した抗発汗組成物を、エーロゾルスプレーにより、年齢21～36才の10人の男性の被験者のわきの下に適用した。このようにして処理した皮膚により放出される初めの臭いはわずかであり、或る場合には皆無であった。約2時間後に、被験者は20分間のバスケットボール試合のような激しい身体活動をした。この時点で行った嗅覚評価は、芳香剤の放出が激しいことを示した。続く休止期間(5分)の間、空気中での汗の乾燥は、芳香剤の拡散において著しい減少を生じた。試合が再開された時、発汗は更に芳香剤を放出させ、試合の終了時に評価委員により認められたように、空気中で数分乾燥した後、この放出は減少し、消失した。

4 図面の簡単な説明

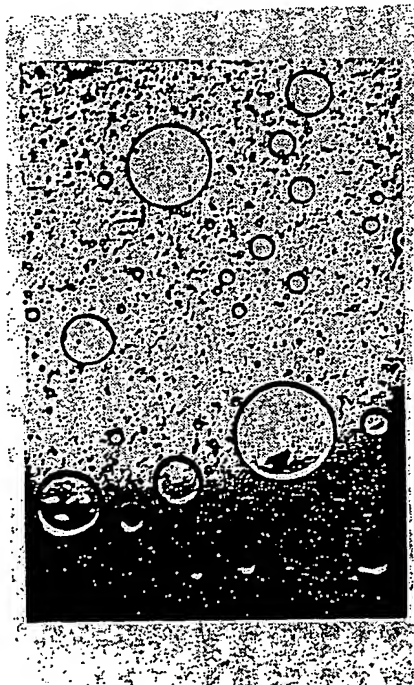
第1図、第2図及び第3図は、それぞれ液相

及び固体層を有する粒子構造を示す電子顕微鏡写真である。

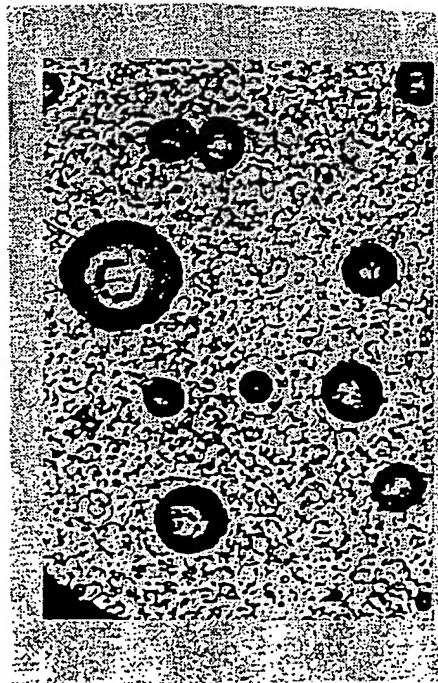
代理人 弁理士 矢野 敏 雄



図面の液相(内容に変更なし)



第1図



第2図

手 続 補 正 書 (方式)

平成 2 年 6 月 27 日

特 許 庁 長 官 殿

1. 事件の表示

平成 2 年 特許願 第 38552 号

2. 発明の名称

脱臭又は抗発汗作用を有する香料組成物及び
~~脱臭組成物及び~~脱臭又は抗発汗装置又は製品

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

名称 ファイルメニツヒ・ソシエテ・アノニム

4. 代 理 人

住所〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号

新東京ビルディング553号 電話(216)5031-5番

氏名 (6181) 弁理士 矢 野 敏 雄



5. 補正命令の日付

平成 2 年 5 月 29 日 (発送日)

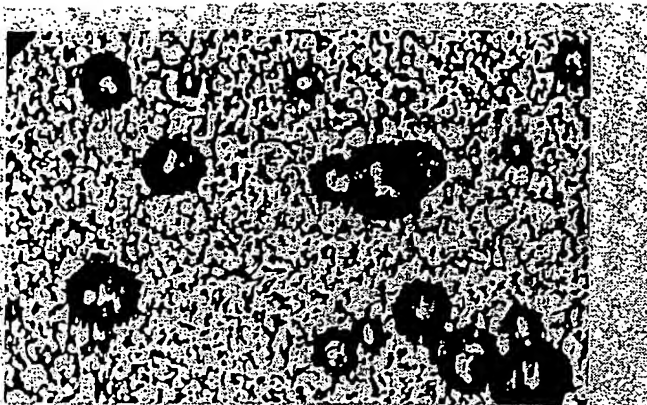
6. 補正の対象

図 面

7. 補正の内容

別紙の通り

但し図面の浄書(内容に誤りなし)



第3図